施策評価シート　（評価対象年度 ： 平成30年度）

1.基本的事項

①施策名〔施策小〕	3	担い手の確保・育成	②施策番号	3433
③まちづくりの方向 〔政策(章)〕	3	産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④基本施策〔施策大(節)〕	1	大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします		
⑤基本的方向〔施策中〕	2	漁業の振興		
⑥担当部名	⑦担当課名			
市民生活環境部	産業観光課			

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

①施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	漁業協同組合・漁業関係者
②意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	本市の水産業は大阪府有数の魚介類の供給地として重要な役割を果たしているが、近年の漁獲量について年々減少気味である。漁場を充実するためのつくり育てる漁場づくり、漁港を活性化するための観光や交流の場などの機能を充実するなどし、担い手の確保・育成を図る。
③環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	大阪湾の漁業生産力を有効に活用した生産性の高い都市型漁業を育成するため、生産基盤の整備や資源管理型漁業が積極的に推進されている。

〔2〕施策指標及び推移

	施策指標	単位	指標とした理由・考え方
①	地曳網・釣堀利用者数	人	地曳網・釣堀利用者数は、観光漁業としての漁業担い手にとっての就労の場の状況が一定わかるため。
	計算式		
②	漁業協同組合員数	人	岡田浦・樽井漁業協同組合員数により担い手の確保・育成の進展が一定わかるため。
③			
	計算式		

	指標名	単位		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
①	地曳網・釣堀利用者数	人	目標値				15,747	20,000	
			実績値	17,424	18,083	15,747	—	—	
			達成率						
②	漁業協同組合員数	人	目標値				122	123	
			実績値	119	120	122	—	—	
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方針	
1	水産振興事業	利用漁船数	隻	140	137	137	2,180	1,954	1,947	A	ア	◎
2	産官学連携まち・海・里山活性加速化事業	アナゴの養殖数	匹	5,000	7,000	10,000	14,023	12,825	11,135	A	ウ	○
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						16,203	14,779	13,082			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること（目的）は、上位施策（施策中）の達成にどのように貢献しますか。 （施策所管課等としての考えをお示しください。）	漁場を充実させ、観光・交流の場として漁港の機能充実を進めることは、漁業者（担い手）の魅力ある就労の場の形成につながり、漁業の担い手の確保・育成となり、上位施策である漁業の振興に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 （2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示しください。）	組合員数は横ばい状態で、観光や交流の場としての観光漁業である地曳網・釣堀への利用者数はH30・R1年度は減少傾向であるがR2年度にはりんくう公園がオープンすることもあり、陸揚量が減っていく中、今後は観光漁業やつくり育てる漁場づくりの施策を行っていく必要があることが読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 （施策所管課等としての考え（理想と現実）をお示しください。）	漁漁関係者、府、港湾局、近隣市町と連携を密にし、役割分担を行っており適正である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 （2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示しください。）	事務事業の内容は施策に適応しており、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 （2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示しください。）	漁場を充実させ、漁港の機能充実を進めることにより、担い手の確保・育成を行っていくためには、これらの事務事業は重点化すべきと考える。

4. 一次評価（所管課評価）

	評価（A～D）	課題等	
一次評価	C	つくり育てる漁場づくり、漁港を活性化するための観光や交流の場などの機能を充実させることが必要。	A：施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B：施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C：施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D：施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 （すぐに取り組む改善案）	つくり育てる漁場づくりにつながる、産官学まち・海・里山活性化推進事業(水産振興)による泉南アナゴの養殖事業が確立されるよう進め、取組み主体である関係団体等と連携しながら、養殖事業の経営計画の策定、市場出荷を進め、漁業者にとって魅力ある就労の場をつくることにより、担い手の確保・育成を図る。
短期的対応 （1、2年のうちに取り組む改善案）	りんくう公園運営者、両漁業協同組合と連携し、泉南あなごの養殖事業・地曳網・釣堀などの都市型漁業（観光漁業）を進めることにより、担い手の確保・育成を図る。
中長期的対応 （3～5年をめどに取り組む改善案）	―

6. 二次評価（行革・財産活用室評価）

	評価（A～D）	課題等	
二次評価	C	成果指標である地曳網・釣堀利用者数については年度によりばらつきがみられる。組合員数については横ばいの状況が続く。 水産業の担い手の確保に向けて、関係団体と連携し、漁業振興へ向けた取組を引き続き進められたい。	A：施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B：施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C：施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D：施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある